

アクティブ・ラーニングへの模索

～「教える」と「学ぶ」とのリンクを考える～

日時▶ 2015年12月4日金 9:30~17:15 会場▶ キャンパスプラザ京都

第1部

総合司会：山本 以和子 氏（京都工芸繊維大学教育研究基盤機構系准教授／大学コンソーシアム京都高大連携推進室コーディネーター）

定員
200名

9:30~9:35 開会挨拶

9:35~9:45 趣旨説明

9:45~10:35 特別講演

北村 聰 氏（京都外大西高等学校長／京都高大連携研究協議会運営委員長）

棕本 洋 氏（立命館大学産業社会学部講師／大学コンソーシアム京都高大連携推進室アドバイザー）

「教える」から「学ぶ」への転換**—高大接続教育におけるICEモデルを活用したアクティブ・ラーニングの実践と評価—**

土持 ゲーリー 法一 氏（帝京大学高等教育開発センター長）

現在、高等学校や大学において様々な形のアクティブ・ラーニング（以下「ALJ」）が導入されているが、生徒や学生が主体的に考える力を育成することが重要であり、そのためには從来の「学習」から「学修」、つまり、教員が何を教えたかではなく生徒・学生が何を学んだかに重点をおいた教授法と学習観への転換が必要となる。また、AL における最大の課題は評価であり、現在、日本ではループリックによる評価が注目されているが、その評価基準に曖昧さを感じた方も多いのではないか。生徒の学びの質を高める評価とは何なのか。カナダで注目されている新たな学習・評価方法である「ICE（基礎知識・学びのつながり・知の応用）モデル」を中心に、AL の実践方法や効果の測定について考えてみたい。

10:45~11:45 実践事例紹介

(高等学校)

誰も教えてくれないアクティブ・ラーニング導入の課題
～嵯峨野・堀川の暗中模索～

京都府立嵯峨野高等学校 神脇 順子 教諭(英語)・小林 孝由 教諭(地歴・公民)

京都市立堀川高等学校 飯澤 功 教諭(理科)・橋本 麻衣 講師(国語)

アクティブ・ラーニング（以下「ALJ」）の導入を校内で推進するにあたり、教員の研修・教員間での意識共有、そして生徒の AL 型学習への意識づけなど多くの課題が存在する。これまで嵯峨野高校・堀川高校では生徒の中にある「学びたい」という思いを発現させるためのカリキュラム・体制・授業内容の構築・実践をすすめてきた。本報告では、両校でこれらの構築・実践に関わってきた教員と、両校のカリキュラムの下で、生徒にアクティブな学習を促すような授業を展開していくこうとしている若手教員が、AL 導入に向けて解決が必要な課題について報告・議論する。

11:45~12:15 実践事例紹介

(大学)

生徒・学生の「学びの同伴者」としての教員の役割

筒井 洋一 氏（京都精華大学人文学部教授／大学コンソーシアム京都高大連携推進室コーディネーター）

アクティブ・ラーニング（以下「ALJ」）は、生徒や学生の能力の違いによって（たとえば、進学校か否か）実施できる学校・大学とそうでない学校・大学があると受けとめられることが多い。しかし、AL は、生徒・学生側の問題ではなく、むしろ教員がこれまでの教え方のマインドセットをどのように転換するのかが問われている。生徒・学生の「学びの同伴者」への転換の一つの試みとして、学外ボランティアと一緒に授業を創る事例から考える。

12:15~13:15 休憩

13:15~14:45 ディスカッション

アクティブ・ラーニングに取り組む他の高校も交えて、高校現場における実践状況や今後の課題を共有し、目指すべき方向性等について議論を深めます。

登壇者 京都府立洛東高等学校 西村 昌能 教諭(理科)

京都市立日吉ヶ丘高等学校 片山雄一郎 教諭(理科)

京都府立嵯峨野高等学校 小林 孝由 教諭(地歴・公民)

京都市立堀川高等学校 橋本 麻衣 講師(国語)

コメンテーター 土持 ゲーリー 法一 氏・筒井 洋一 氏

コーディネーター 内村 浩 氏

(京都工芸繊維大学教育研究基盤機構系教授／大学コンソーシアム京都高大連携推進室長)

第2部

※第2部の詳細は裏面をご覧下さい。

15:15~17:15 分科会

第1分科会【表現技法】／第2分科会【数
第3分科会【英 語】／第4分科会【理
学】
科】定員
各30名

主催 京都高大連携研究協議会

京都府教育委員会／京都市教育委員会／京都府私立中学高等学校連合会／京都商工会議所／
公益財団法人大学コンソーシアム京都お問い合わせ先
【火～土 9:00～17:00】公益財団法人 大学コンソーシアム京都
高大連携・インターンシップ事業部〒600-8216 京都市下京区西洞院通塙小路下ル キャンパスプラザ京都(月曜休館)
TEL: 075-353-9153(直) TEL: 075-353-9100(代) FAX: 075-353-9101
URL: <http://www.consortium.or.jp/>

会場地図



第1分科会 表現技法 Techniques

テーマ アクティブ・ラーニングの評価方法
—学習者による自己評価システムの提案—

アクティブ・ラーニングという学生の主体性を促す授業実践が大学で求められ、さらに高大連携のキーワードとして使われるようになっている。一方で、学生が能動的に活動するだけでは、必ずしも「深い学び」を実現できない。

そのなかで、アクティブ・ラーニングにおける評価方法として、学生自身にとって、「学びのための評価」又は「学びとして評価」を取り入れる必要性が強調されている。PISA2015問題解決の枠組みは、協働的な状況における個人の問題解決スキルを評価しようとしている。このワークショップでは、簡単な解説の後、参加者が実際にPISA2015を利用した評価を体験し、参加者自身の授業との関連性についてワークをおこないながら考える。ここでは、グループワーク内の活動にどれだけ深くかつ戦略的に取り組んでいるかを学生によって振り返る機会(形成的評価)として、PISA2015問題解決の枠組みを利用するやり方を、参加者とともに実践し意見交換することを目指す。

コーディネーター ▷ 筒井 洋一
(京都精華大学人文学部 教授)

報告者① ▷ 大木 誠一
(前・神戸国際大学附属高等学校 教諭)

報告者② ▷ 筒井 洋一
(京都精華大学人文学部 教授)

テーマ ディベート活動の取り組みを通して培う
英語コミュニケーション力と思考力

京都市立紫野高等学校では、「未来の国際人の育成」を教育目標の一つとし、実践的英語力の育成に力を入れ、英語ディベートの実践を授業で行つてきた。今回は、ディベート活動が、英語によるコミュニケーション、および論理的思考にいかに有用かを、生徒の活動を紹介しながら報告する。

大学でも、特に理系分野においてはグローバルな場において英語によるプレゼンテーションやディスカッションを行う場面が一般的である。今回は、大阪府立大学 大学院・工学研究科機械工学分野の中川助教を中心としたチームが京都市立紫野高校で行った即興型英語ディベート指導も含めながら、即興型英語ディベートのルールやその有用性、ディベート普及に関する取組等を報告する。

アクティブ・ラーニングとしての英語ディベート活動の指導と評価及び授業への活用法について、ディベートワークショップも取り入れながら考察したい。

コーディネーター ▷ 太山 陽子
(京都市教育委員会指導部学校指導課 指導主事)

報告者① ▷ 岩崎 美佳
(京都市立紫野高等学校 教諭)

報告者② ▷ 中川 智皓
(大阪府立大学工学研究科 助教)

第3分科会 英語

English

申込方法

大学コンソーシアム京都WEBサイトからお申込みください。先着順となります。

<https://event.consortium.or.jp/kodai13/>

申込期間 9月24日(木)9:00～10月31日(土)17:00

定員

第1部／趣旨説明・特別講演・実践事例紹介 200名
第2部／分科会 各30名

参加費

京都府内の高等学校・大学関係者 1,000円
上記以外の方(京都府内の企業参加者含む) 2,000円

※参加費については、「レジュメ・資料集」「報告集」を含みます。

※今年度より払込票での事前支払となっております。メールでの申込み後、払込票をお送りいたしますので、お支払いをお願いいたします。

※お支払いいただいた参加費は、いかなる理由があっても返金には応じられません。予めご了承ください。参加費をお支払いただいたのち、やむを得ざる欠席された方につきましては、後日、「レジュメ・資料集」「報告集」を送付いたします。

第2分科会 数学

Mathematics

テーマ アクティブ・ラーニング(主体的・協働的な学び)の推進
—京都数学グランプリー

京都府教育委員会では、理数系分野の人材育成と、数学の楽しさや面白さをより多くの生徒に感じてもらうことを目的に、平成19年度から始めた京都数学コンテストを発展させ、平成21年度から京都大学と連携して『京都数学グランプリ』を開催している。今回は、その2ndステージである「京都数学オリンピック道場」の取組を報告する。

毎年1月に日本数学オリンピック予選会が開催されるが、本取組はそのための勉強会に位置づけている。数学オリンピックに関心がある中学生・高校生が京都大学に集まり、過去問等を題材に解法を交流したり議論したりしている。ここで扱う題材は、スタッフ(大学教員、高校教員及び大学院生)が協力して、身に付けてほしい資質・能力を視野に入れながら選出している。さらに参加した生徒の主体的・協働的な学びが充実したものとなるよう、スタッフでアイデアを出し合ながら取組を進めている。

この分科会では、本取組の紹介だけに留まらず、参加者とともに主体的・協働的な学びの推進に向けた意見交流を行いたい。

コーディネーター ▷ 水口 博史
(京都府教育庁指導部高校教育課 指導主事)

報告者② ▷ 岸本 尚子
(京都府立南陽高等学校 教諭)

報告者③ ▷ 浅岡 正幸
(京都大学大学院理学研究科 准教授)

テーマ 未来の科学者を育てるシンクロトロン放射光を使った高校生実習
～高大連携の中で生徒の自主性を重視した発表活動～

立命館大学と各附属校、提携校の間では、同一学園の強みを活かし、有意義な高大連携企画を多く行っている。その中でも象徴的な取り組みとして、毎年、びわこ・くさつキャンパスにあるシンクロトロン放射光を使った研究施設SRセンターでの高校生実習がある。2日間にわたるこの実習では、SRの説明(導入)、SR実習(体験)、知識の共有(ディスカッション)、パワーポイントを使った発表(表現)という筋道によって、高校のレベルを超えたテーマに生徒達は果敢に取り組んでいく。そして、参加した生徒の科学に対する意識は高まり、将来の科学研究へ向けての興味・関心・意欲を大きく高める役割も果たす。同時に、高校の学習に対する姿勢も変えている。最先端の研究施設を軸に、大学の協力の下で、高校生の自主性を活かした取り組み(アクティブ・ラーニング)を加え、高校生がどのように成長するのかを伝えたい。

コーディネーター ▷ 田中 博
(学校法人立命館一貫教育部 部付部長)

報告者① ▷ 栗木 久
(立命館高等学校 教諭)

報告者② ▷ 太田 俊明
(立命館大学総合科学技術研究機構 SRセンター長・教授)

第4分科会 理科

Science

申込手順

※申込手続き完了後の参加分科会の変更はできませんのでご注意ください。

1 お申込み(先着順)

①左記URL、もしくは「大学コンソーシアム京都」WEBサイトの「第13回高大連携教育フォーラム」のページから「メールアドレス確認フォーム」へアクセスし、メールアドレスを入力・送信してください。

②送信いただいたメールアドレス宛に「参加申込フォーム」のURLをお送りしますので、メールに記載のURLにアクセスし、画面の指示に従って申込手続きを行ってください。

※「参加申込フォーム」のURLの通知メールが届かない場合は、メールアドレス誤入力等の可能性がございます。その場合はお手数ですが「メールアドレス確認フォーム」にメールアドレスを再入力し、再送信してください。

※申込手続き完了後に「申込完了メール」を送信します。翌日になっても申込完了メールが届かない場合は、ご面倒ですが大学コンソーシアム京都までお問い合わせください。

2 参加費のお支払い

※今年度より参加費は事前支払いとなっております。

申込手続き完了後、郵送にて払込票(請求書)をお送りいたしますので、最寄りのコンビニエンスストアで参加費をお支払いください。

※銀行などの金融機関ではお支払いできませんのでご注意ください。

参加費支払締切: 2015年11月10日(火)

3 参加証の受領(メールにて)

4 当日 参加証持参

※1~4の詳細については、「大学コンソーシアム京都」WEBサイトの「第13回高大連携教育フォーラム」のページをご覧ください。